

地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業

清流王国とやま水守り隊 2024

1 ねらい

- ・大型河川の成り立ちや、河川と人との関わりを学び、森・川・海・人のつながりについて体験を通して理解する。
- ・水質指標生物調査とパックテストを行い、川の水の水質を知るとともに、川原や海岸に落ちているごみを調査する活動を通して、水の環境の実際について知識を深める。
- ・数々の水の恵みとそれらを保全する行動について考え、次の世代に富山の美しい水環境を引き継ぐために自分は何ができるのかを考える。

2 期日

令和6年8月24日(土)～25日(日) 【1泊2日】

3 対象

小学校4・5・6年生

4 募集人数 / 応募人数 / 参加人数

24名 / 18名 / 13名 (5名参加決定後にキャンセル)



5 講師・スタッフ

富山県環境保健衛生連合会役員4名  
国立立山青少年自然の家職員4名

6 共催・後援

富山県環境保健衛生連合会  
北日本新聞社



7 日程

日付	曜日	午前	午後	夜
8月24日	土	・立山博物館見学 (ブナ林ジオラマ) ・源流探検(沢歩き)	・常願寺川中流水質調査 (指標生物、パックテスト) ・常願寺川河口見学 ・岩瀬浜環境調査 (マイクロプラスチック)	・学びの振り返り ・環境壁新聞づくり①
25日	日	・環境壁新聞づくり② ・壁新聞発表	・立山カルデラ砂防博物館見学 ※荒天と増水により、川遊びを中止とした。	

8 参加者からの事後アンケート

- ・2日間の活動で、自分にできることや、地震、土石流などいろいろなことを知れました。また、マイクロプラスチックのことや、たくさんの生き物のことを学びました。沢で、川の始まりが見られてうれしかったです。きれいな水を守るために、「ポイ捨てしない」「余分なごみを出さない」ことを続けていきたいです。
- ・水守り隊で学んだことを生かして、水のことを知らない人に教えることが私にできることです。

- ・富山の川の水は、ほかの県よりもきれいだと思った。海岸にごみがいっぱい落ちていて、残念だった。川遊びができなくて残念だったけど、カルデラ砂防博物館もおもしろかった。
- ・中流では、ごみが少なくて、きれいな水の中にすむ生き物が見られた。薬品を使って調べてみても、一番きれいな結果になった。でも、海岸に行くとマイクロプラスチックが思ったよりもたくさんあってびっくりした。マイクロプラスチック以外にもペットボトルや発泡スチロールがたくさんあった。みんなでごみを拾って、最後は景色が変わっていた。とてもうれしかった。

## 9 成果

- ・昨年の広報の遅れを改善し、7月初旬にチラシ配布を行ったことに加え、昨年度より対象学年を1学年広げ、4年生からの募集としたところ参加申し込みが9件増加した。
- ・新たな活動フィールドの開拓を試み、今年度は立山博物館を活用することができた。
- ・川の流れに沿ったフィールドワークで、環境の変化が分かりやすかった。また、森や沢にはなかったごみが、下流に行くに従い増えていくことから、子供たちの問題意識を高めることができた。
- ・中流域での指標生物を採集する水質調査と、海岸でのマイクロプラスチックを含むごみ調査を軸として、水を取り巻く環境教育の研修支援プログラムを開発することができた。
- ・事業実施直前に、活動を予定していた水辺の楽校の使用禁止の連絡があり、活動場所を百間滑に変更した。当日は、荒天と増水により川遊びを中止して立山カルデラ砂防博物館の見学とした。いずれも、柔軟に対応できたことは、本事業の教材研究の成果である。

## 10 今後の課題

- ・4年生の総合的な学習の時間で、環境を題材に取り上げているケースが多いので、4年生以上を対象にすることを継続する。
- ・今回の事業で開発した研修支援プログラム（指標生物採集をとまなう水質調査、マイクロプラスチック調査、源流調査など）を、県内の小学校に広報し実施する。
- ・フィールドが広く、天候による活動の変更も考慮する必要がある事業の特性と、事業予算の縮減から、借上げバスによる実施は難しい。

